

よっ葉だより

2022年
10月3日号
No.716

祝40周年

おかげさまで40周年②



1982年10月4日、小山市内でよっ葉生協の設立総会が開かれました。今週にちょうど40年を迎えます。1970年代は、高度経済成長下での公害問題が深刻で、食品添加物や農薬、環境汚染の問題や、毎日口にする食への関心も高まっていました。「安心して食べられる食べものを手に入れたい」という主婦達の思いは、牛乳や豆腐など商品を共同で購入し、分け合う形で地域生協の設立に結びつきました。よっ葉生協も、協同組合の基盤「出資・利用・運営参加」の広がりを背景に、よっ葉牛乳を共同購入する会(1973年発足)から発展、地域生協のひとつとして産声を上げました。

設立当初は、小山市神鳥谷の事務所で宅配配送からスタートでした。商品の手配も配送も人手がなく、数少ない職員で担っていました。

組合員台帳もノートに手書きで、第1号の組合員から名前や住所、電話番号が丁寧に手書きされ、今でも大切に本部で保存しています。ボロボロの組合員台帳は、連日連夜商品の手配と配送、組合員拡大に走り回っていた職員の忙しさ、組合員の熱意を今に伝えます。深刻な赤字続きを脱するため個人宅配に転じた1988年頃からは加入も委員会活動(組合員活動)も活発になり、設立10年の1992年10月に現在の小山市栗宮に新センターを完成、同年11月に第1回よっ葉ふれあいまつりを開催することもできました。

未来に向けて協同の力を

生協は開かれた自発的な組織であり、加入している人はみな「組合員」です。加入時に収めた出資金を元に、生協の事業が運営されます。出資した組合員は平等の議決を持ち、「私たちの生協」として、意思決定や運営に参加する権利があります。組合員は、商品を利用する他、組合員活動に参加したり、企画する側として委員会活動に参加することもできます。また、行政やNPO、ボランティア団体とも協力して、暮らしやすい、生きやすい社会に向けて一生懸命活動を続けています。

これからも、有機農業やネオニコチノイド不使用の推進、食品添加物の削減、石けんの利用など、40年間大切にしてきた「いのちと健康くらしを守る」理念をもとに、その時代ごとの新たな課題に向き合い、知恵を絞りながら未来につなげていきます。

理事長 三輪



1983年小山駅東口に店舗開店



手書きの
組合員台帳



小山市神鳥谷の旧本部



今のよっ葉生協

よつ葉生活協同組合 40 周年—前進する糧を求めて—⑩

有機栽培を広げるということ

有機農産物や特別栽培を手に入れる理由として、ある調査によると(複数回答)安全が 61%、健康に良いが 47%、美味しいが 26%、生産者のこだわり支援が 19%、環境に配慮したものであるが 16%となっています。

誰もが安全だから健康に良いと思っています。と言ってどこでも手に入るところまで広まっています。農業は、農薬なしでは成り立たないという声も耳にします。今の有機農法とは異なりますが、農薬・化学肥料が作られるまでは、農薬とは無縁だったわけです。化学工業の発達と共に、農薬の製造も増えてきました。栃木県足尾銅山でも精製に使った硫酸は化学肥料に、砒素は殺虫剤として、1928 年に登録農薬第一号として販売したそうです。各県で作物に対して農薬の使用回数がほぼ決まっています。その県の中心的な作物は安定的な出荷が求められているので、同じ作物でも県によって使用回数が違う場合があります。米でもこの時期には、カメ虫退治のためネオニコを散布して下さいと栽培タイムスケジュールが配られます。有機農業には、化学合成農薬、化学肥料、除草剤を使用しないと言う前提がありますが、農法については個々のやり方に任せられています。

米作りについては上三川町にある民間稲作研究所が、田植え前の代かきの回数と、深水管理で、田植後は一度も田んぼに入ることなく除草管理ができる行程をビデオにまとめて公開しています。防虫のための畔の草刈りのタイミングと、草の長さなど、生物同士の特徴をいかし、カエルや蜘蛛の力で防虫するなど、人間だけの力で農業をするとは思っていません。

有機栽培と慣行栽培の違いは、生物の力を借りるか農薬の力を借りるのかにあると思います。度々報じられているように、農水省が「みどりの食料システム戦略」という 2050 年に向けた農業政策の中で、耕地面積に占める有機農業の取扱面積の割合 25%、100 万ヘクタールに拡大するとしています。現在 0.5%、2 万ヘクタール位です。

2030 年には 3.6 万ヘクタールを目標とし、2040 年まで次世代有機農業技術確立をめざし、2040 年から 2050 年で一挙に 100 万ヘクタールにする計画です。

今年是全国でオーガニックビレッジ宣言をした市町が出てきています。2025 年まで 100 市町村での宣言が目標。有機農業の生産、加工、流通、消費の流れを宣言都市の中で作り出し、その中に有機食材による学校給食での利用も掲げられています。よつ葉生協が連携をしてきました小山市、塩谷町も名のりをあげ、両方によつ葉生協から参画しています。

何故急に有機農業を広めようとしているのかは、地球規模での気温の上昇、降雨量の増加等により災害の激甚化の傾向、それによる農林水産の被害が増えているので対策を講じると言うものです。

世界的人口は増えていますが、日本は減りつつあります。人口が増えているインドなどは今も輸出規制をかけています。家畜の飼料の国産化が少しずつ進んでいます。人口が減ると言う事は、農林水産業に携わる人も減ると言うことです。第一次産

業の衰退は、国の食糧方針が 1 番目に掲げられているかどうかです。ヨーロッパ、アメリカでも個人農家への直接支払い補助金が補償されています。日本では、昨年米の収量が例年通りでしたが、コロナによる外食産業の低迷、主食の米離れもあり、各県で買い入れ価格が下がり、農家が作れば作るほど赤字になるという悲鳴が聞こえてきました。直接消費者と結びついて販路を広げている有機農家はそれ程ではありませんでしたが、日本の主食を守り続けている農家が、高齢で続けられない以上に生活が成り立たず、継続できなくなるのはあまりにも「食は命」の軽視であり、米づくりに適した日本の身勝手さが表れています。

先日上三川町の民間稲作研究所にアフリカやケニア、ウガンダなど 10 カ国から稲作の研修に日本でいう県の職員にあたる人が見えました。アフリカは水田ではなく陸田がほぼで、1 年に 1 度位川の氾濫に合わせて米づくりをしているそうです。害虫駆除も空の色が変わる位のバッタが押し寄せるそうです。日本のやり方が全く参考にならないほどの困難な中での農業が強いられています。余剰米を持っている日本と、今日食べる米がないアフリカの差をどうしたら埋めることができるか。有機栽培を参考にしたいとわざわざ見えたことに胸が熱くなりました。

世界中に有機栽培が広がりつつあります。それは過去にアジアアフリカで「緑の革命」と茄銘打って化学肥料と農薬によって収量を増やすことが行われましたが、最終的には東南アジアでのウンカの大発生などを引き起こし失敗しました。化学肥料で土地が痩せ、農薬に耐性ができ虫の集団発生が起き、飢餓状況は全く解決していません。

一時的な多収量収穫はできるが、長く続かなかった限界の克服が有機農業の道の選択でもありました。農薬、化学肥料の長期使用は、食の安全はもとより地球規模での土の流出の原因にもなっています。地球温暖化による異常気象は、大雨、洪水、大型台風、干ばつなどを引き起こしています。畑の土地は作物が根を張ることで土を固定しています。土着菌が根を張るのを助けています。土中の微生物や生物が生きられる環境づくりができるのが有機栽培です。

有機栽培を各国が増やそうとしているのは、安全な食材だけではなく、地球規模で地球本来の姿に戻れるように努力する大きい挑戦です。農薬、化学肥料を製造するときの資源の喪失、CO2 排出、有機質による炭素の土中へのかかえ込みによる削減。化学の進化に伴って、地球環境に負荷を与えた結果の温室効果ガスの発生なのであれば、化学の進化の見直しをする必要があります。化学を科学的に見直し、地球の再生に何が必要か問われています。土の再生に必要な腐葉土を八分解する微生物、水中や土にいる生物、この生死を含めた循環が、土を豊かにし、いろいろな生き物が生きていく元になると思います。

地球再生の大きな課題をマイナスではなくプラスにしていく効果が有機農業にはあると確信しています。よつ葉生協でも、有機農産物、加工品を増やし、友好生協の連帯で「コープ有機」を設立し、点を面に広げる活動をすすめていきます。

(会長 富居)

新しい組合員交流企画、始まります！
みんなで話そう！

よつ葉の広場 **わ わ わ**
話・輪・WA

コロナ禍が始まる前、よつ葉生協では組合員の交流会「よつ葉カフェ」を年間 16 回（2019 年度）も各地域に出向いて開催していました。「くらら」を見ながらおススメの商品を語り合ったり、食の安全などに関する DVD を視聴したり、そして「カフェ」の名の通り、よつ葉の旬のお野菜や食材を使ったランチを皆で頂きました。組合員以外のお友達もお誘いできて、仲間になっていただく絶好の機会でもありました。

まだ以前と同じ「よつ葉カフェ」を企画することはできませんが、地域に出向き、組合員さんと交流する機会を設けます！



<19 年度よつ葉カフェの様子>



たくさん話して、よつ葉の輪を広げて、ワイワイ楽しく！」の思いを込めて「よつ葉のひろば 話・輪・WA」と名付けました。
各地域の組合員の皆さんと、お気に入りの商品やよつ葉生協の取り組みに関する情報を共有したり、ネオニコに関する動画を視聴したり、「よつ葉のだしつゆ」の活用レシピをご紹介したり…。楽しく充実した時間を一緒に過ごしましょう♪ たくさんのご参加をお待ちしています！

（理事 堀）

- 【日 程】
- 10月27日 古河市福祉の森会館（4ページで参加者募集中!!）
 - 12月 9日 群馬県内
 - 2月24日 宇都宮市内

※ 会場参加が難しい方のために、
オンラインでの開催をこのほかに 1 回予定しています。
（時期未定）

よつ葉サークルの仲間になりました！ 大地っ子

「よつ葉サークル」とは、よつ葉生協の組合員さんによる自主活動サークルです。組合員が 3 名以上在籍しよつ葉の理念に沿うことを条件に、理事会の承認を経て、よつ葉生協から助成を受けて活動しています。この度、新しくよつ葉サークルの仲間が増えましたので、ご紹介します！

茨城県坂東市で現在月に 2 回（平日 1 回、週末 1 回）親子向けの野外食育イベントを開催しています。内容は、1 月のお餅つきから始まり 3 月にはよもぎ餅作り、春にはたけのこを掘ってタケノコご飯作り、夏のそうめん流し、秋の月見汁作りなど…季節の行事や旬の食材を大事にして毎回企画しています。使う材料も、地元のこだわり食材やよつ葉生協の安心安全な食材など、子どもたちのころとからだ、そして地域や地球環境にとっても良いものを心がけて選んでいます。今年では活動場所の敷地で”はたけ作業”も始め、みんなで植えたものを収穫、調理までするということにもチャレンジしました！



会員制ではなく毎回単発での参加可能イベントです。開催の詳細はInstagramやフェイスブックでお知らせしています。
是非遊びに来てください♪

坂東地区 滝本可南



Instagramを
覗いてみてね！

参加してみませんか

古 河

「よつ葉の広場 ～話・輪・WA～」

よつ葉カフェにかわる新たな交流会の場です。
昼食の提供はありませんが、おみやげをご用意しておりますので、お気軽にご参加お待ちしております。

日 時：10月27日（木）10：00～11：30（受付9：45～）

会 場：古河福祉の森会館 和室（茨城県古河市新久田271-1）

参加費：無 料

定 員：20人 託 児：な し

締切日：10月14日（金）

主 催：よつ葉生協

問合せ：よつ葉生協 本部 中村 TEL 0120-07-1613



長年に渡り、私たちの健康や 子供たちの未来の為に安心
安全な食べ物を提供して下さい、本当にありがとうございます。
また、生産者の方々や 環境保護など、地球の未来の為に
働いて下さっていることにも 深く 感謝致します。

『勤勉さは

人の貴重な宝である。』

お手紙を
ご紹介します

通常でも大変なお仕事の上、感染リスクという不安を抱えながらの
各家庭への配達などは、私たちの 想像も出来ないような
不安や ご苦労がおありになるのではないのでしょうか。
そのような 大変な状況の中、生産者や 組合員の方々の
貴重な力となって下さっていることに 思いを馳せる度、
この格言を思い出しております。

感染症の収束が見えず、また 連日 厳しい暑さが続いておりますので
くれぐれもご自愛下さいますよう、心よりお祈り致します。

（益子地区 M・Nさん）

共 通 申 込 書

希望する行事名に ☒ してください
□よつ葉の広場 ～話・輪・WA～

組合員番号 氏 名

住 所

連絡のつきやすい電話番号☎

参加人数	(大人) 組合員	人※同居の家族は組合員に含みます
	(大人) 組合員以外	人
	(小・中学生)	人 歳 歳 歳
	(未就学児)	人 歳 歳 歳

備考欄

ZOOM

オンライン Zoom

「えみさんちの寒い冬を乗り越える

薬膳食材の料理実演教室」

よつ葉のビーフシチューをワンランク上の、本格ビーフシ
チューに！薬膳食材も知れてお腹からポカポカして、クリスマスメ
ニューにもばっちり使えます。お気軽にご参加お待ちしております！

日 時：11月4日（木）10：30～12：00

（受付10：15～）

会 場：オンライン Zoom

参加費：無 料

締切日：10月21日（金）

※このイベントは、よつ葉生協ホームページから受け付けます。

[資料請求・ご入会・お問い合わせ](#) から [イベントの申込み](#) をクリ
ックしてください。

主 催：よつ葉生協

問合せ：よつ葉生協 本部 中村 TEL 0120-07-1613

●Zoom を利用するには、安定したインターネット環境が必要です。
事前にご確認の上、お申し込み下さい。

〈必要機器〉スマートフォン・タブレット・パソコン（カメラ・マイ
ク内蔵またはカメラ・マイク外部接続が可能なもの）のいずれか
です。



ご意見・ご感想をお寄せください。お名前と組合員番号をご記入の上、
共同購入注文書またはお手紙でお願いします。掲載の方には粗品をプ
ゼントいたします。※掲載するにあたって事前ご連絡をすることはあり
ませんので、ご了承ください。

新型コロナウイルス感染症対策たすけあい募金報告（9月3週分）

ご協力ありがとうございます。

組合員さんの助けあいの気持ち広がっています（単位：円）

栃木コロナ支えあい基金（860番）	5,200
群馬コロナウイルス対策募金（861番）	2,800
茨城誰かのために募金（862番）	2,500
合 計	10,500

共同購入注文書の該当番号に数量をご記入ください。

WEB注文の場合は、左側「企画商品・募金」内の「募金関連」をクリック。
一口100円の募金になります。

東日本大震災・東電原発事故での支援金 募金報告（9月3週分）

ご協力ありがとうございます。

組合員さんの温かいお気持ちが今週も寄せられています（単位：円）

放射能から子どもを守る募金（900番）	6,700
震災孤児を支援する募金（910番）	17,000
「有機農業と国産種子」募金（920番）	8,200
合 計	31,900

共同購入注文書裏の「10品以上の記入欄」に該当番号と数量をご記入ください。
WEB注文の場合は、左側「企画商品・募金」内の「募金関連」をクリック。
一口100円の募金になります。

●編集・発行よつ葉生活協同組合 小山市栗宮1223

☎0120-07-1613 TEL 0285-45-9100 FAX 0285-45-9101

HP <https://yotsubacoop.jp/> メールアドレスが変わりました。

よつ葉だよりメールアドレス yotsubadayori@yotsuba-coop.jp



ホーム
ページ



Facebook



Instagram